

小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会  
まちづくり部会（第3回）

平成28年2月26日(金)開催

意見と対応方針

項目	意見	対応方針
既存の地域資源を活用した課題解決	高岳引込線沿線だけでなく、JR 水戸線や両毛線や小山駅西口側も含めて考えていく必要がある。ロボレのリニューアルの検討も難航している。今ある地域資源を活かすことを重視していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の地域資源との連携により機能の相乗効果を高める方策をソフトとハードの両面から今後検討していく。</li> </ul>
	都市と農の交流拠点づくりなどは、耕作放棄地の問題をはじめとした地域課題を解決するモデルになり得るように思う。	
沿線地区の定住促進	自然と共存する地方のいなか暮らしの魅力を高めることが沿線地区の人口増加や定住促進につながると考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市と農の交流拠点や住宅団地リノベーションエリアなどで定住促進の方策を今後も引き続き検討していく。</li> </ul>
	人口増加や定住促進は重要な視点であり、今後も継続して検討していくべき。	
自動車の位置付け	P&R とあるが、小山駅付近まで自動車アクセスしやすくなれば、もっとまちが活性化するのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の中心部への乗り入れについては、新交通システム部会と調整・連携して、今後検討していく。</li> </ul>
	小山市は商業施設に行くのに自動車を使う車社会である。	
	本来であれば、都市の中心部から自動車を排除するのが一般的だが、自動車の位置付けは今後の検討課題の一つである。	
駐輪場不足解消への寄与	小山駅前の駐輪場が一杯であり、LRT ができれば駅前の駐輪場不足が解決されることも一つの効果になるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小山駅東口ゲートウェイ拠点の導入機能例に意見を反映した。</li> </ul>
	自転車の駐輪問題の解決をアピールできるとよい。	
学生やNPO、高齢者等が地域活動やまちづくり活動に参加する仕組みづくりの構築	当社では市内採用枠が限られており、地元の高卒採用がない状況である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多世代が集う交流拠点の導入機能例の健康・コミュニティ機能を加筆修正した（「地域活動・まちづくり活動の拠点施設」）。</li> <li>学生やNPO等がまちづくりのマネジメントに参加できるようなソフトの仕組みを今後検討していく。</li> </ul>
	また、学生の就職の場を誘致できると良い。学生やNPO等がまちづくり活動に積極的に参加できるソフト施策も組み合わせられるとよい。	
	最近では、ボランティアや市民団体の役員を務める人材が少ない。	
	定年退職者や高齢者が活躍できる仕組みを高岳引込線沿線で構築できると良い。	
	新交通の駅ができれば居酒屋などが思い浮かぶが、高齢者の居場所づくりが必要である。	
小山市内の他の高校等とも連携して技術の集積につながれると良い。		

項目	意見	対応方針
将来像について	将来像には「ネットワーク」や「スマート化」を入れたい。駅に行けば病院などの情報がすぐわかるようになるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来像を「スマートなライフスタイルでつながるまち」とした。</li> </ul>
	地域のきめ細かな情報をネットワークさせることが大事である。将来像の参考にしてまとめられるとよい。	
新交通システムへの期待	高齢者はいずれ自動車を運転できなくなる。まちに出るためには、LRTなどの公共交通の充実が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来像に「つながるまち」を盛り込んだ。</li> <li>• 今後も新交通システム部会と調整・連携していく。</li> </ul>
	小山高専の生徒としては小山駅に行きやすいまちになってほしい。	
まちづくり構想の実現化	古河電工さんの低未利用地に多世代交流の拠点をなんとか確保できないか。P&Rの駐車場も利用しながら、LRTに乗ってまちに出かけられると良い。子育て世代や高齢者が暮らしやすいまちにしたい。ロブレの子育て施設との連携も考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後、整備主体や法規等を検討しながら詳細をつめていく。</li> </ul>
	土地を遊ばせておくことはもったいないと考えており、他からよい話があれば進んでしまうことをご理解いただきたい。地元の自治会にも使ってもらいたいと考えており、まちのことを考えていないわけではない。	
	この構想には、これまでのまちづくり部会の意見が盛り込まれている。今後、この構想を具体化させていくのがまちづくり部会の役割である。	

以上